

第2章 摂津市のめざす子ども像

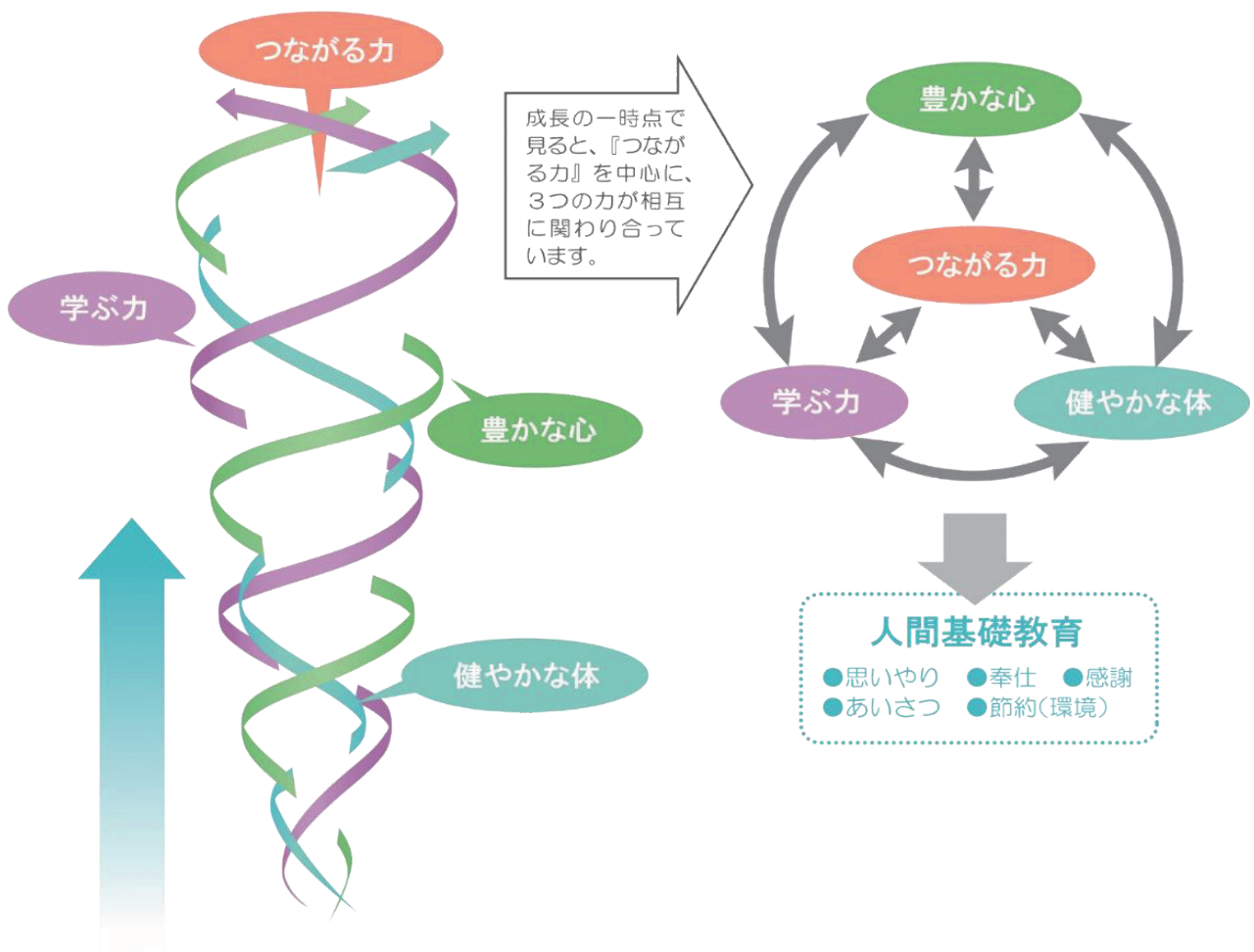
(1) めざす子ども像を育む4つの力

平成23年度の本手引き策定時に、乳児から小学校就学直前までに育てたい子ども像について、学識経験者や公私立園代表、地域や家庭の代表等による策定委員会にて検討を重ね、策定されたものが、摂津市のめざす子ども像です。

摂津市のめざす子ども像を育むために重要としたものが、『つながる力』『豊かな心』『健やかな体』『学ぶ力』の4つの力です。その中でも、特に『つながる力』を重要な力として設定し、他の3つの力の基礎として、またそれぞれの力がつながりあう中心として捉えています。つながる力によってそれぞれの力が育ち、また、それぞれの力が育つことでつながる力が育っていくものと考えています。

さらに、『つながる力』を育てることは、本市が提唱している人間基礎教育の『思いやり』『奉仕』『感謝』『あいさつ』『節約(環境)』の『5つの心』を大切にする、基本的な社会のルールを守る人づくりにつながります。めざす子ども像を育むことは、人間基礎教育を進めることになります。

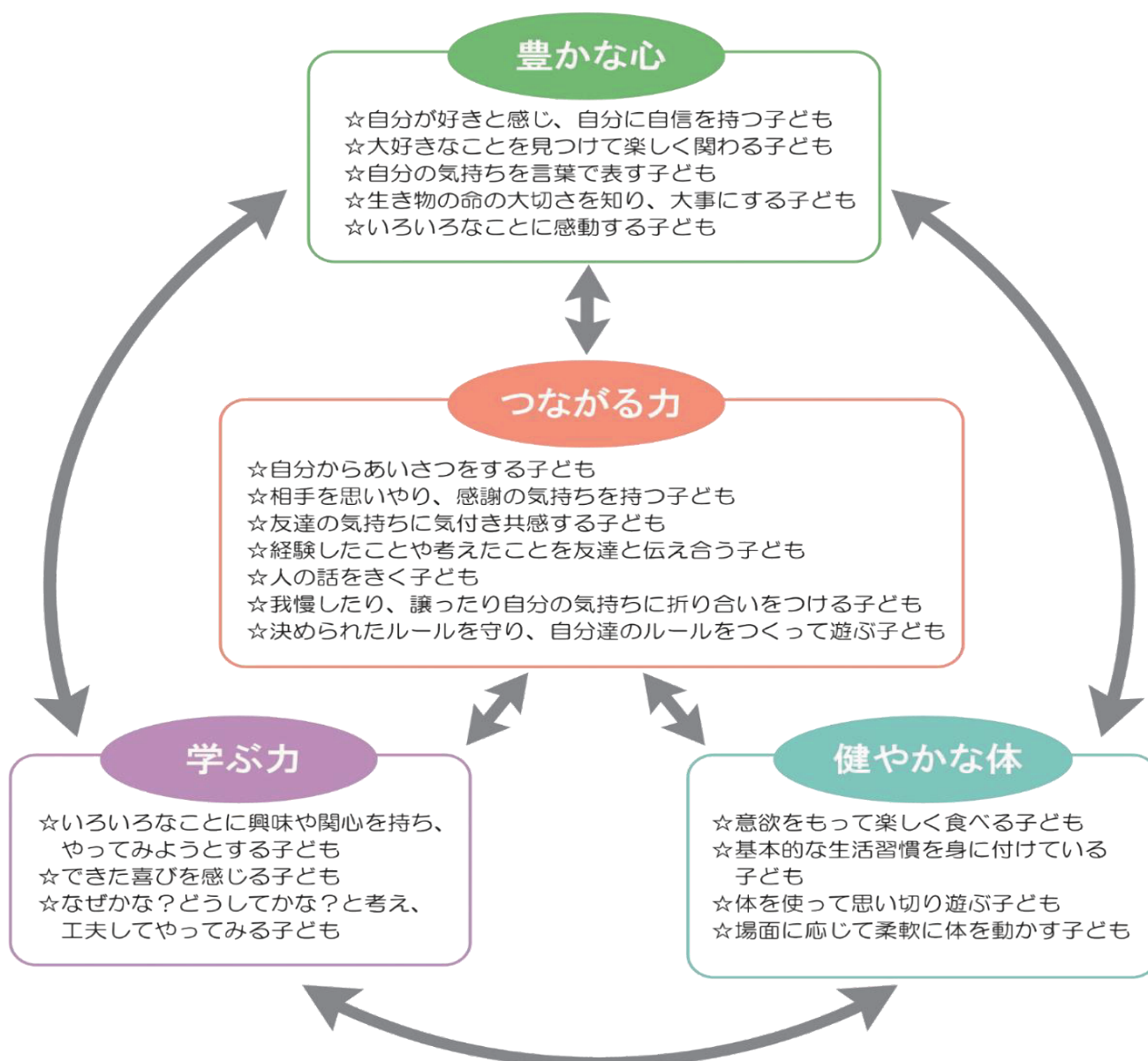
今回の改訂では、このめざす子ども像とそれを育む4つの力の見直しは行わず、これを活かしながらの改訂となっています。



(2) めざす子ども像

めざす子ども像として、具体的な姿を以下に示します。

めざす子ども像



(3) めざす子ども像に向けて大事にすること

めざす子ども像を育むために、子どもに必要なことと、保育者が大事にすることを以下に示します。子どもたちは、『してもらおう』『愛される』『受け容れてもらう』『共感してもらえ』経験をたくさんすることで、信頼する保育者のもとで安心して生活をし、その中で様々な生きる力を身に付けていきます。

つ な が る 力	めざす子ども像：自分からあいさつをする子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・挨拶をし合うことの大切さを感じ、自分から挨拶する	【保育者が大事にすること】 ・保育者自身が場面に応じた気持ちの良い挨拶を積極的に交わし、子どもの良きモデルとなる
	めざす子ども像：相手を思いやり、感謝の気持ちを持つ子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・自分が大事にされていると感じながら、人から感謝される経験をする ・異年齢の子どもや地域の人等、様々な人と関わる	【保育者が大事にすること】 ・子どもが、自分を受け容れられていると感じるような関わり方をする ・行動を丁寧に見て、思いやりのある行動を認める
	めざす子ども像：友達の気持ちに気付き共感する子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・自分の気持ちを言葉で表し、共感される経験をする ・大人とのやりとりを基盤として、友達とのやりとりを重ねる	【保育者が大事にすること】 ・友達との関わりの中でのトラブルや出来事等を側面から援助する ・自分の気持ちに気付き、安心して気持ちを表せる関係を築く
	めざす子ども像：経験したことや考えたことを友達と伝え合う子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・わかってもらう経験や伝えて良かったと感じる経験をする ・経験したことを振り返り、遊んだり表現したりする	【保育者が大事にすること】 ・自分の経験や考えをわかるように友達に伝えられるよう、時には保育者が仲立ちをし、言葉を添える等して援助する
	めざす子ども像：人の話を聞く子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・話を聞いてもらった満足感を感じる経験をする ・親しみの気持ちや相手への興味・関心をもつ	【保育者が大事にすること】 ・保育者がモデルとなり、子どもの気持ちを受け止め、共感し、丁寧に話を聞く
学 ぶ 力	めざす子ども像：我慢したり、譲ったり、自分の気持ちに折り合いをつける子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・気持ちを受容される経験を重ね、信頼感と安心感をもつ ・気持ちのやりとりを重ね、わかり合う経験をする	【保育者が大事にすること】 ・双方の気持ちを受け止めながら、様々な形で援助する ・子どもの育ちや、場に応じた適切な援助をする
	めざす子ども像：決められたルールを守り、自分達のルールをつくって遊ぶ子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・信頼する大人との関係をもとに安心して行動する ・秩序のある生活の中で安心して過ごす心地良さを感じる	【保育者が大事にすること】 ・ルールは子どもに合った方法でわかりやすく知らせる ・子ども自身が見通しを持って生活できる環境を整える
	めざす子ども像：いろいろなことに興味や関心を持ち、やってみようとする子ども	
学 ぶ 力	【子どもに必要なこと】 ・保育者や友達との安定した関わりの中で、興味のあることをやり通した満足感を味わう経験を重ねる	【保育者が大事にすること】 ・集中して好きな遊びに取り組めるよう、子どもに適した安全な環境とゆとりのある時間を保障する
	めざす子ども像：できた喜びを感じる子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・できたことを信頼できる大人や周りの人に知らせ、認められる経験を重ねる	【保育者が大事にすること】 ・成功体験、役に立った！という体験を積み重ね、できたことを一緒に喜び合えるようにする
学 ぶ 力	めざす子ども像：なぜかな?どうしてかな?と考え、工夫してやってみる子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・試行錯誤を重ねてやり遂げる経験や、予測したり工夫したりしたことが実現する経験を重ねる	【保育者が大事にすること】 ・子どもの疑問を受け止め、一緒に考えたり調べたりし、適切に対応する ・子どもが考え試行錯誤する姿を温かく見守り、必要に応じて声をかけ援助する

豊かな心	めざす子ども像：自分が好きと感じ、自分に自信をもつ子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・自分が大切にされている、愛されていると感じる ・安心基地となる大人との出会いや関わりの中で、自己肯定感を育む ・諦めずに自分なりにチャレンジしようとする	【保育者が大事にすること】 ・愛されている、受容されていると実感できるようスキンシップや言葉、態度で表す ・子どもの欲求を適切に満たしながら、応答的な触れ合いや言葉かけを行う
	めざす子ども像：大好きなことを見つけて楽しく関わる子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・いろいろな『こと』や『もの』に触れ、体験し、楽しむ経験を積み重ねる ・好きな遊びに没頭し、心から遊びこむ経験を積み重ねる	【保育者が大事にすること】 ・楽しむ気持ちを受け止め、共感し、保育者も一緒に楽しんで関わっていくよう心がける ・様々な体験ができ、自分の大好きが見つけれられるよう、日々の保育の環境設定を行う
	めざす子ども像：自分の気持ちを言葉で表す子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・気持ちを受け容れられ、話したいことを話せる経験をする ・自分の気持ちに気づき、気持ちを表す言葉を知る	【保育者が大事にすること】 ・子どもの言葉を大切にしながら、丁寧にやりとりをする ・自分の気持ちを言葉で表せるよう聞く姿勢を大切にする
	めざす子ども像：生き物の命の大切さを知り、大事にする子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・自分が周りの人から大切にされていると実感する ・生き物と関わり、愛おしむ経験をする	【保育者が大事にすること】 ・生き物に触れたり育てたりできる環境を設定し、命の大切さや尊さに気付く経験ができるようにする
	めざす子ども像：いろいろなことに感動する子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・心が動かされる体験と振り返りを積み重ねる ・様々な体験を通して、考えたり調べたりしながら、想像力や感動する心が育つ環境のもとで過ごす	【保育者が大事にすること】 ・子どもの驚きや感動を受け止め、共感する ・心動かされる体験が重ねられるよう、環境構成の工夫を行ったり、考えている子どもに寄り添ったりして、感動体験を共有していく

健康な体	めざす子ども像：意欲をもって楽しく食べる子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・一緒に食べると楽しいと感じる体験を積み重ねる ・栽培や調理等に楽しく関わる経験をする	【保育者が大事にすること】 ・楽しく、自ら進んで食べることができる環境を整える ・食事、睡眠、運動等の生活リズムが整えられるよう、保護者と一緒に取り組む
	めざす子ども像：基本的な生活習慣を身に付けている子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・自分でできたことを喜び、自信をもつ経験を重ねる ・衣服の着脱、排せつ、手洗い、食事の仕方等の正しいやり方を身に付けるとともに、自分のことは自分ですするという気持ちをもつ	【保育者が大事にすること】 ・衣服の着脱、排せつ、手洗い、食事の仕方等の基本的な生活習慣の確立に向け、発達段階に応じた援助・配慮を行う ・保護者と、子どもの現在の生活習慣の確立状況を伝え合い、目標を共有し、自信を持って関われるよう援助する
	めざす子ども像：体を使って思い切り遊ぶ子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・体を動かすことや外で遊ぶことが楽しいと感じる経験を積み重ねる ・毎日60分以上、楽しく体を動かす経験をする	【保育者が大事にすること】 ・園や家庭での運動の大切さを保護者へ知らせ、できる限り子どもと一緒に体を動かして遊ぶ機会をもってもらおうよう、遊び方等を伝えていく
	めざす子ども像：場面に応じて柔軟に体を動かす子ども	
	【子どもに必要なこと】 ・多様な体の動きが育まれる様々な運動遊びを楽しむ ・集団のルールのある遊びを経験する	【保育者が大事にすること】 ・屋内外問わず、体を使ったやりとりのある遊び、多様な体の動きが育める運動遊び、自然体験等、柔軟に体を動かすことのできる場面を取り入れる

*平成23年度作成の前手引き内容を一部変更し記載